



国際ロータリー第2790地区

THE ROTARY CLUB OF CHIBA SOUTH



千葉南ロータリークラブ会報

(創立)1964年3月2日

(例会日)毎・金曜日12時30分

(例会場)オークラ千葉ホテル

(会長)齋藤 昌雄

(幹事)植松 省自

(会報委員長) 永安 重治

(事務局) 〒260-0027 千葉市中央区新田町12-1 トーシン千葉ビル7階 (☎043-245-3204)

第2447回

平成26年4月18日(金) 点鐘12:30 《小雨》

- ◇ロータリーソング『手に手つないで』
- ◇四つのテスト ～言行はこれに照らしてから～

1. 真実か どうか
2. みんなに公平か
3. 好意と友情を深めるか
4. みんなのためになるか どうか

◆お客様紹介

・本日のゲストスピーカー
千葉市都市局 参事 増田 由一様

◆会長挨拶及び報告 齋藤 昌雄会長

韓国の大型客船事故で、修学旅行の学生等大勢の方が行方不明ということで大惨事が発生しているようです。短時間で沈んでいく様子をテレビで見ながらもっと早く何とかできないものかと思うばかりです。

また、九州では鳥インフルエンザが発生、豚は流行性下痢が発生し千葉県でも発生が報告されています。過去に牛も、口蹄疫やBSEが騒がれましたが、日本の消費者は「日本は安全」という気持ちがあるせいか、このようなニュースに関心が薄いと感じます。

しかし、日本を取り囲むほとんどの国が家畜伝染病の汚染国になっています。皆さんも、海外に出かけられる機会が多いと思いますが、成田空港など入国の際は消毒用絨毯があって、今よりも厚く消毒液がたっぷりついたものにして欲しいと要望しました。最近は改善されてきているようですから、靴の裏の消毒をしっかりと入国して欲しいと思います。千葉市も、鳥インフルエンザでは大変な経験をしています。一度発生すると正常国に戻すために相当な努力が必要になります。アジアでは、日本が唯一正常国になっていますが、我々の業界は、これを維持するために相当神経を使って仕事をしています。最近、渡り鳥が菌を持ってくるのではないかとされており、鳥が飼育施設に入ってこないようにネットを設置

したりもしています。

もうひとつ、我々の業界の関心事はTPP問題で、ここにきて急速に交渉が進展しています。オバマ大統領が来日した時に安倍総理との間で決着するのではないかと、どさくさに紛れて決められてしまうような危機感を持って見えています。千葉市の畜産家は多いときで600戸ほどありましたが、現在は50戸に減少しています。千葉県全体でも4千戸が、今は600戸台になっており、減少を止めようと努力する一方で、後継者問題もあり苦勞しています。牛乳は、国内供給量がマイナスに転じており、国でも増産施策を取ろうとしています。生産者が減少していて対策が進まない状態です。

今日は、千葉市のお話を聞かせていただけるようで楽しみにしております。よろしくお願ひ致します。

◆幹事報告 植松 省自幹事

例会休会日の確認です。

4月25日(金)と5月2日(金)は、予定どおり休会です。次回の例会は、5月9日(金)になりますので、よろしくお願ひします。

◆ニコニコボックス報告

《齋藤昌雄会長・植松省自幹事》

増田由一様、本日の卓話、宜しくお願ひ申し上げます。

《江沢 一男会員》

増田さん、今日は忙しい中、有難うございます。宜しくお願ひ致します。

《出井 清会員》

オーストラリア大陸中央にある世界遺産「エアーズロック」へ行ってきました。シドニー迄10時間、国内線を乗り継ぎ4時間余り、砂漠のリゾートは遠かったけれども心洗われる「パワースポット」でもありました。

この町は「ウルル・カタジュタ」遺跡の中心にあり、先住民(アボリジニー)とホテル従業員、バス関連、観光ガイドしか住まない、人口せいぜい数百人の所ですが、次週にはイギリスのロイヤルファミリーのキャサリン妃が来られるということで、町は大変盛り上がりしていました。リゾート開発後30年足らずとのことですが、今後、益々観光客数が増えそうです。

本日のニコニコボックス	4,000 円	累計	648,000 円
金の箱	610 円	累計	25,860 円

◆出席報告 (会員数49名)

出席者数35	欠席者数14	ビジター 1	修正出席率 100%
--------	--------	--------	------------

千葉市内例会変更のご案内 [メーキャップにご利用下さい。](#)

千葉RC	月	—	三井ガーデンホテル千葉
千葉西RC	火	5/20	センシティタワー「東天紅」
千葉幕張RC	火	5/20・5/27	アパホテル&リゾート東京ベイ
新千葉RC	水	5/21	京成ホテルミラマレ
千葉北RC	水		ホテルポートプラザちば
千葉中央RC	木	5/15・5/29	三井ガーデンホテル千葉
千葉港RC	木	5/15・5/29	京成ホテルミラマレ



本日の卓話

演題 ⇒ 「集約的都市構造のまちづくり」
卓話者⇒ 千葉市都市局 参事 増田 由一様



30年ほど前に、8年間ほど千葉ローターアクトに在籍し、ロータリアンの皆様にもいろいろとご指導いただきました。おかげさまで、今日、ようやくそのお礼を述べる機会となりました。ご紹介いただいた京葉臨海鉄道の江沢様も千葉ローターアクトのメンバー

であり、地域に根差したこのような活動がいかに重要かということを感じているところです。私の経歴ですが、昭和54年に市役所に入庁し、振り出しは教育委員会でした。その後、主に都市計画の分野で経験を重ねて参りました。この間、千葉県庁や国土交通省へも出向する経験もさせていただき、現職に至っております。

さて今日お話しするのは、集約的都市構造のまちづくりについてです。集約的都市構造というのは、都市計画の分野では、近年よく語られる言葉です。一般にはコンパクトシティなどという言葉も基本的には同じ概念です。コンパクトシティの事例としては、青森市や、富山市が有名です。青森市の場合は、中心市街地以外での人口の高齢化による雪下ろしのコスト縮減に端を発したと聞いていますが、郊外にいる人口を中心部に集め都市機能を以前よりコンパクト、集約的にしたといわれています。また富山市はLRTと呼ばれる、路面電車を活用し、中心市街地のアクセス性を向上させ、まちを活性化したと聞きます。集約的都市構造という言葉と比べると都市内の1か所にきゅっと集まるか、いくつかの拠点に分散し集約するかというような違いがあると考えていいと思います。こうした考え方の底にあるのは、人口密度の問題です。言い換えれば、人口の減少、少子高齢化という問題です。

【総人口の見通し】 これは現行の千葉市の新基本計画にある、千葉市の人口の見通しです。ここでは平成27年

をピークとしています。直近の推計では平成27年ではなく32年にピークを迎えるものと推計しています。その後、人口は減少し、10年後には約3万人20年後には約10万人減少すると推定しています。人口は(約1割減、通常の市の人口に相当)と考えているようです。

【区別人口の見直し】 区ごとの推計も出ており中央区は若干上昇傾向を見せるものの、他の5区は、かなりの減少傾向が予測されます。平成27年→平成47年での区別減少率 花見川 14%、稲毛 10.5%、若葉 19%、緑 9%、美浜 15.9% 中央区+4% **人口密度** 平成22年度現在市人口密度 3535 人/k²、中央区 4,449 人/k²、花見川区 5,284 人、稲毛区 7,424 人、若葉区 1,800 人、緑区 1,835 人、美浜区 7,096 人

【人口ピラミッド】 また年齢別の人口ピラミッドを見ると平成24年、33年、47年と高齢者が人口の多くの割合を占めていくのが見込まれます。いわゆるある年代層に人口の塊があるわけですが、これは、千葉市の発展してきた経緯と密接な関連があります。

【土地区画整理事業】 昭和40年代から50年代の経済の高度成長に伴い、東京への通勤者の受け皿として市内各地に当時の住宅公団による団地の建設や、市街地周辺における土地区画整理事業の実施、さらには、海岸線の埋め立てにより多くの住宅用地が提供され、そこに、若い子育て世代が住みついて行った歴史があります。千葉市の人口が30万人に達したのが東京オリンピックのあった昭和39年ですが、その後昭和43年には、40万人。昭和46年には50万人。昭和49年には人口が60万人になり、わずか10年で30万人の人口増という状況でした。その後昭和52年70万人、昭和62年80万人。現在96万4千人となっております。

【DID 地区】 その結果、都市計画の分野での市街地の指標としてよく使われるDID地区(人口集中地区、1平方キロメートル当たり、人口4千人の区域)は、昭和35年当時の5倍程度となっています。

【都市構造】 そうして発展してきた千葉市ですが、現在の基本構想の中では、千葉市の都市構造は大きく3つのゾーンに分けられています。都市機能集約ゾーン、生活・環境調和ゾーン自然共生ゾーンと言う設定をしていますが、人口や商工業の密集具合に合わせたものと考えていいでしょう。

【都市基盤の老化】 このような都市を支えていくのが都市基盤と呼ばれる、道路や鉄道、上下水道、電気などですが、今までお話したように急激に発展した千葉市でもその整備が急務でした、人口増加に合わせて整備を進めてきましたが、一部では、すでに老朽化が始まっています。総延長が伸びるに従い、老朽化する施設も散見するようになってきています。これから20年くらいたつと、再整備が必要となる施設が非常に多くなります。当然、そのコストは、ばかになりません。このため今までの多くの行政で行われてきた、壊れたら直すという対症療法的管理から、早めにメンテナンスをしていく予防保全的管理に軸足を移すことにより、そのコストを軽減する必要があります。この辺りは民間の思想のほうがすぐれている感じがします。行政には減価償却という概念が欠

如しているといったところでしょうか。

【橋梁長寿命化計画修繕】 こういう長寿命化計画を策定し対応することで橋梁の維持更新日は50年後の2060年度までで合計500億円程度縮減できると見込んでいます。市の財政も、人口減少、少子高齢化に伴い、かなりきびしくなってきました。今お話したような都市基盤施設、箱ものなどの維持管理コストは膨れ上がってきており、予防的なメンテナンスに力を入れても場合によっては十分な公共サービスを提供できなくなる可能性もあります。つまり基盤だけではなく市民サービスそのものも低下しかねないということなのです。

事例としてあまり好ましくないかもしれませんが北海道の夕張市は炭鉱の閉鎖により人口が激減し、再建団体となっています。当然行政サービスも最低限のものとなっており、何十年か先にはこのような都市が増えることも想定されます。このような課題に対して都市の再生を図る国土交通省では、市街地の拡散、低密度の市街地を懸念し、都市全体の観点から課題解決に取り組む方針を示しています。特に地方都市では急激な人口減に速やかに対応することが求められており、医療、福祉、子育て、商業等の効率的な提供、生活サービスや、コミュニティが維持されるような利用圏人口の設定、生活サービスへのアクセスの確保が重要であるとし、そのために生活機能の計画的配置、人口密度の維持、公共交通の充実が急務であるとしています。具体的にはこれらの生活サービス施設を街中に計画的に再配置し、これを利用する人のための公共交通を整備させるとともにできるだけまとまりのある居住を促進することが必要です。イメージ的にはくしと団子のたとえがよく使われます。

大都市では、少し状況が異なっており、団塊の世代を中心として人口が、郊外部の住宅に多いことから、医療、介護の需要に対し、十分にサービスが提供されないことが懸念されるとして、既存施設を活用した対応が良いとされています。複合的なサービス施設を空きが出てきた学校などの施設を活用して生活をさせる施設を整備することなどがこれにあたりとされています。建物の目的を変えるためにコンバージョンとも呼ばれています。また、地方都市と同様に中心部への医療施設の立地を促すために駅に近い中心市街地での高層化を支援するの一方策とされています。これらは、ある一定の人口密度、需要を前提としてサービス提供を行おうとするもので、人口構成の状況に応じた柔軟な対応が必要とされています。一方このような人口減少に対応するにはどのような方策があるのかと考えてみますと、人口自体が減少してしまうのはやむを得ないとしても、その人々に十分にサービスを利用してもらうことによってサービスの需要を掘り起こすことが考えられます。

【就従比】 就従比とは、都市の中で仕事についている人の中で、どれくらいの人が、その都市の中で仕事についているのかを示す概念で、小さければ他の都市に就業人口が流れている。1に近ければその都市の中で雇用が確保されている。言い換えれば自立しているということになります。他の都市に比べると千葉市の就従比は高く、周りから人が集まってきている傾向が見られます。

千葉市の代表的なイメージは、東京都心に近い便利な街、気候が温暖で住みやすいまち、海のあるまちとされていますが、観光を楽しめる、文化、芸術が充実している。歴史がある、などの分野は非常に弱い現状があります。千葉市の商圏としては主に県南部方面が多く言われていますが、これらの商圏以外からも集客し、住んでいないけれども消費をしていく観光の方々を増やすことで、商業の需要や、観光の需要、あるいは医療の需要などを掘り起こし、新たな一步を踏み出す必要があると考えられます。減少する人口をどうにかカバーする施策が必要です。大きな意味では、周辺の市町村とのアクセスを充実させ、広域での集約的な都市構造のかなめになる必要があり、いわゆる交流人口を増やすことで、定住人口の減少を補うことが必要です。この分野については、都市計画というより、集客観光、経済の分野になるかもしれませんが、いくつかご紹介すれば QVC マリンフィールドでの野球観戦やフクアリでのサッカー観戦、新しく整備された幕張新都心のイオンモール、民間によるレストラン設置など新たな利用が始まる美浜区の海浜部や、稲毛の浜の活用あるいは土気の昭和の森にあるユースホステルが、民間資本によりスポーツをメインとした宿泊施設並びにオートキャンプ場として活用される。稲毛駅に隣接する日本たばこの倉庫跡地の活用や、歴史的施設としての千葉神社の活用などが、検討されています。このように今ある施設を活用し、かつ新たに手を加えることで、千葉市の都市としての魅力を増やし、交流人口の増加、さらには定住人口の増加に向けて努力していきたいと考えております。

雑駁なお話になりましたが、千葉市の都心にある機能を充実させるとともに、いくつかの拠点を中心に生活サービスを集約させ、くしと団子の言葉にあるように、それらを公共交通でつなぎ、生活の質を確保していく。また、これらのサービスを維持するために、観光などをメインとする交流人口を確保することにより千葉市の集約的都市構造が実現できるのではないかとのお話をさせていただきました。 (文責 永安重治会員)



ローターアクト時代の仲間

左から

伊藤会員

増田様

江沢会員

第2448回例会

日時⇒ 平成26年5月9日(金) 点鐘12:30

卓話⇒ 『会員ミニ卓話』

第2449回例会

日時⇒ 平成26年5月16日(金) 点鐘12:30

卓話⇒ 『ダイビングについて』

卓話者⇒ 有限会社オーシャンドリーム

代表取締役 中尾 淳子様